

2021年度年末手当交渉！！

第3回交渉～会社の考え～

中央本部は11月11日に「2021年年末手当第3回交渉」を行いました。

会社の考え

- ① 新型コロナウイルス感染拡大と豪雨災害の影響により減収。第6波の懸念もされている。
- ② 要員不足については前回の交渉で聞いて受け止めている。機械化、システム化や働き方改革を展望していきたい。
- ③ 生活給については否定しないが、上半期の業績であると考え。
- ④ 様々な影響により、営業収入は716億7100万円(対計画98.8%)で推移しており厳しい状況ではあるが経済回復の兆しが見えてきている。
- ⑤ 組合員の主張を受け止め、現時点では昨年の年末手当を上回れるように検討したい。

組合の主張

- ① 評価制度、要員不足により職場は疲弊している。ボーナスで職場の奮闘に对应しないとモチベーションは下がり、緊張感の糸は切れてしまう。実際に、事象と労働災害は増えている。人にしっかりと投資をするべきだ。
- ② ガソリンや灯油の高騰、物価の上昇分を生活給として、社員に安心を与えている気があるのか。とてもでもないが、「昨年の年末手当を上回れるよう」では、奮闘している職場は納得しない。
- ③ 感謝の言葉は少ないから数字でしっかりと感謝を示すべき。

青年部員は、あらゆる問題の中我慢しながら奮闘してきた。

「業績は賞与で還元する」という考えがあるならば、

経営陣は、満額回答をすべきだ！！